

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか

CSR レポートでは、大阪有機化学工業株式会社の代表取締役社長の安藤氏と浄土宗・正覚寺住の鶴飼氏の対談が掲載されている。この対談で仏教と安藤氏の考える経営のかかわりについて話されていたので、会社の目指す姿を理解しやすかった。会社の繁栄は従業員の活動に負い従業員の幸福の源泉は会社の繁栄にあると安藤氏は考えている。会社と従業員は運命共同体というこの考え方により、自分だけが良ければそれでいいという独善的な考え方をしないのである。つまり、目先の収益や過度な利益を優先する経営をせず、経済価値と社会価値を両立することで長続きする経営を目指している。

また、この会社はお客様、従業員、協力会社、社会の声に耳を傾け、経営の改善に取り組んでいる。全ての問題をいきなり解決することは困難なので優先課題を設けて、中長期で真摯に問題解決に取り組んでいる。さらには環境問題の解決を目指している。このような諸問題に取り組むためにこの会社は人材の育成に取り組んでいるのである。

大阪有機化学工業株式会社は考えられる社旗問題として、気候変動、国内の人口減少、エネルギーの安定供給、技術革新、資源の効率的な利用を挙げている。これに対し、大阪有機化学工業株式会社の事業領域は化成品事業、電子材料事業、機能化学品事業、事業開発室である。そのためこの会社はSDGsの視点で長期的な視点に立ち環境、社会、ガバナンスにおいて細かく優先的な取り組みを決めている。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

CSRレポートでこの会社の主な事業と製品が書かれていて、さらに戦略、外部環境、この会社の状況、原料まで細かく書かれている。そのためこの会社の競争優位性が理解できる。この会社の事業としては化成品事業、電子材料事業、機能化学品事業、事業開発室の四つがある。例えば化成品事業はCSRレポートによると、戦略には、卓越した蒸留精製技術により差別化した高純度製品に資源を集中すること、および、有機合成技術を生かした新製品を継続的に上市することにより、特殊アクリル酸エステルグローバル市場において、絶対的な地位を構築するとある。外部環境には、機会として脱炭素社会実現に向け、植物由来原料の需要の高まり、リスクとして、気候変動、生物多様性リスクによる化学物質管理の規制の厳格化が挙げられている。この会社の状況には、強みとして、有機合成技術、重合防止技術、蒸留精製技術、豊富な製品ラインナップと知識、課題として、不採算製品の改廃が挙げられている。以上のように細かく書かれているため、この会社の競争優位性は理解できる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

その競争優位性の持続性は事業によって戦略や課題が異なるため変わると思う。そのため以下では四つの事業のそれぞれの持続性について考える。

化成品事業については競争優位性に持続性があると考えられる。すでに卓越した蒸留精製技術により差別化した高純度製品に資源を集中している。さらに有機合成技術を生かした新製品を継続的に上市することにより、特殊アクリル酸エステルのグローバル市場において、絶対的な地位を構築することが実現すれば競争優位性は持続すると考えられるからである。また、この会社は社会問題の解決に取り組んでいるため、リスクに対して素早く対応できるはずである。

電子材料事業については、競争優位性に持続性があるとは言い切れない。外部環境のリスクとして代替製品および代替技術の台頭が挙げられていて、これらが現実となれば、競争優位性は持続しないからである。

機能化学品事業については競争優位性に持続性があると考えられる。戦略に特殊アクリル酸エステルの合成技術と、それらの重合技術を共に有することで実現した、特殊な機能を付した材料をグローバル市場に提供するとある。グローバル市場かつ特殊な機能付きの材料ということで競争相手がいないと考えられるからだ。

事業開発室については、競争優位性に持続性があるとは言い切れない。外部環境のリスクとして、DXの加速による経営資源の統合などで、独自技術の優位性の確保の難しさが挙げられているからだ。もし、独自技術の優位性が確保されなければ競争優位性は持続するとは考えにくい。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

大阪有機化学工業株式会社で私の人的資本の価値向上は達成できると思う。この会社は従業員が業務を通じて、働きがいと成長を実感できる企業を目指している。従業員の主体性や挑戦意欲を引き出し、誠意・熱意・創意を育む風土を創り、個人の幸せと会社の持続的成長の両立を実現している。

働きがいの向上のため、働き甲斐の可視化がされている。また在宅勤務制度やなど多様な人材が活躍できる職場づくりがされていて、またハラスメント研修があるため、ハラスメントのない職場だと考えられる。このように業務に集中することができる職場であることがわかる。そのため働きがいを感じながら主体的に挑戦することができる。さらには地域社会とのかかわりがあるので、いろいろな人とかかわることができるので視野を広げることができる。そのため、大阪有機化学工業株式会社で私の人的資本の価値向上が達成できると考える。

### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

C S Rレポートはカラフルで、かつグラフや表や写真が使われているおかげで非常にわかりやすかったので改善する点はあまり考えられない。